

Web 自転車マップの分析と評価

岩手県立大学 学生会員 ○米田 縁
 岩手県立大学 フェロー会員 元田 良孝
 岩手県立大学 正会員 宇佐美誠史
 岩手県立大学 学生会員 山崎 智水

1. はじめに

自転車マップは現在全国の自治体、法人、民間などで製作配布が行われている。パンフレット等の紙媒体地図のほか、近年ではインターネット上でのデータ配布等や不特定多数の書き込み型の自転車マップ作成サイトなどでも自転車での周遊・移動についての情報共有が行われている。本研究では利用者の居住地に関わらず不特定多数の自転車利用者が容易に情報を入手できる手段としてインターネット上で公開されている自転車マップに着眼し、比較調査を行うことで自転車マップの評価と、マップの有用性を高める方策を考察する。

2. 自転車マップの特徴

(1) 自転車マップの概要

2014年3月現在でインターネットの検索と各都道府県、都道府県庁所在地のホームページから自転車マップを38入手した。表1には収集したマップの属性を分類して示している。

表の通り、作成主体は県や市区町村が多くその他は観光協会や商工会、個人の自転車店など規模は異なる。また、想定される利用者は大まかに分けて観光客が主である。他に、マップの対象エリア近辺の住民向けのものやコミュニティサイクルのポートマップ等が存在する。

表1 自転車マップの概要

作成主体	枚数	想定される利用	枚数	表示形式	枚数
都道府県	11	観光客向け	27	PDF	31
市区町村	17	住民向け	7	jpeg,png等	3
その他	10	その他	4	スクロール式	4
計	38	計	38	計	38

キーワード：自転車マップ 自転車 インターネット
 連絡先 〒020-0693 岩手県滝沢市菓子 152-52

岩手県立大学総合政策学部 TEL 019-694-2700
 g041j105@s.iwate-pu.ac.jp

表示形式はPDFファイルに変換されているものが大半を占めるなか、Google mapを利用したスクロール式のマップをホームページに埋め込むものも見られる。

(2) 観光客向け自転車マップの特徴

収集した自転車マップの約7割を占める観光客向けのマップは対象地域内の観光スポットをめぐるルート案内が主となる。観光スポットの写真や、地域に関する説明が記載されているパンフレット形式のものも多い。ルート掲載があるマップでは、該当ルートを一巡するまでの所要時間や勾配に関する表記があるマップもあり、初めての観光でも時間配分が行いやすくしている。

(3) 住民向け自転車マップの特徴

住民向けのマップは自転車の安全走行や利用促進を目的に、舗装状況や混雑状況、道幅などの自転車走行そのものに関する情報をまとめている。作成段階でワークショップを行うことにより住民の声を取り入れるほか、実走実験による改善を行う事例も見られるため、観光客向けの自転車マップよりも実用的と考えられる。

「豊田市自転車走りやすさマップ」では自転車を活用したまちづくりに向けて、住民に自転車利用の意義等を認識してもらうために住民参加型のマップ作成を行っている。このことから、自転車マップの作成目的は自転車の安全利用だけではなく、市民参加など地域活動の題材としても扱われていると考えられる。

(4) その他のマップの特徴

コミュニティサイクルやレンタサイクルのサイクルポートを示した自転車マップはサイクルポートが駐輪場所となっているので駐輪場所を事前に知ることができる。コミュニティサイクルの利用者は近隣住民と観光客の双方を想定しているため、住民向けの商業施設や公共施設だけでなく観光客向けの観光スポットや飲食店など周辺施設の情報量も多い。また、江東区・横浜市・仙台市・岡山市ではコミュニティサイクルのホームページ内にスクロール式のマップを埋め込んで広域情報に対応している。現在収集しているマップでスクロ

ール式のマップを公開しているものはコミュニティサイクルのポートマップのみである。

その他、やや特殊であるが自転車の時間帯別通行規制を表示した「京都市河原町周辺の自転車通行規制マップ」や、自転車盗難の発生件数から盗難が起りやすい場所を示した「青森県警察犯罪発生マップー自転車盗発生マップ」など、注意喚起を目的としたマップも見られる。

3. 自転車マップ上の記載情報に関する考察

自転車マップには作成ガイドラインが存在しないためマップによって情報の量および質に差が見られる。そのためマップによっては有用性に問題のあるものや、閲覧が困難なもの、誤情報を記載しているものもある。

有用性に問題のある地図として、基本的な情報である縮尺の記載がないものが全体の 28%であった。観光客向けのマップと市民向けのマップの双方であったが、観光客向けのマップについては土地勘のない利用者が利用することが想定されるため、距離が不明確で目的地までの移動に支障が出るおそれがある。

図1は自転車マップの最終更新日を示したものである。図の通り、1年以内に更新されたマップは全体の約3割である。舗装状況や渋滞状況等は観光スポットと異なり短期間で変化する場合がある。平成26年3月時点で収集したマップの中で最も更新日が古い自転車マップは岩手県盛岡市のマップで、2006年以來更新していない。このマップでは盛岡市で整備されている自転車通行路(ブルーゾーン)がマップに反映されておらず、2014年現在の道路状況と大きく異なる。このように、情報更新が遅れることにより情報の正確性がなくなるおそれがある。また、約4割の更新時期が不明なマップも同様の問題がある。

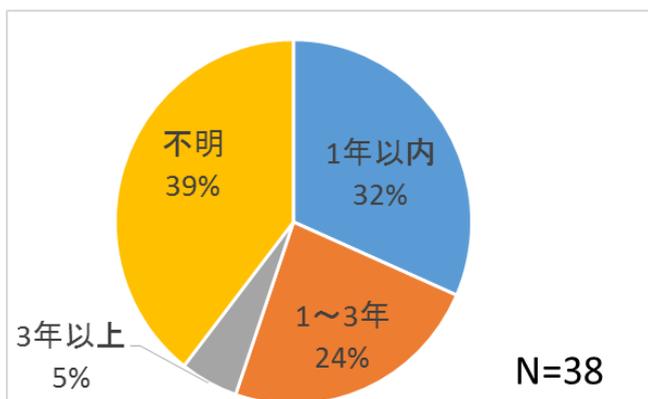


図1 自転車マップの最終更新日

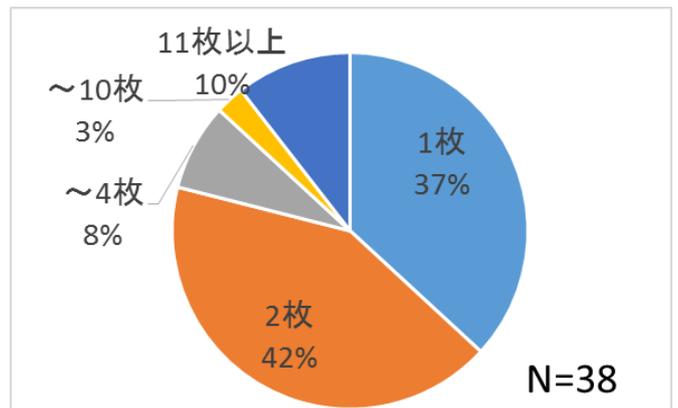


図2 表示マップの枚数

図2は表示マップの枚数を示したものである。図では1～2枚で約8割を占めている。4枚までの地図は広域な地図を印刷向けに分割して配布したものが約9割を占める。しかし、枚数が多くて閲覧が困難なものがあり、多いものでは埼玉県の「自転車みどころスポットを巡るルート100 ルートマップ」が挙げられる。このマップではルート別マップと全県マップの合計101枚作成されている。それらのマップではルート別にマップを用意するため枚数やサイト内のページ数が増えてしまい必要な情報を探るのが容易ではない。

また、「広島中心部自転車マップ」では情報の誤りが見られた。マップに記載されている自転車の交通ルールの中で、車道での自転車の制限速度は自動車と同じであるという記述があった。正確でないルール記述は自転車の安全な走行を妨げるおそれがある。

マップ全般の問題点として、駐輪場に関する記載の不足がある。駐車場の場所を記載している自転車マップは24に対して、駐輪場の場所を記載しているものは18と、駐輪場より駐車場の方が多い。駐車場の記載の中には市営駐車場やコインパーキング等駐輪が不可能な場所も含まれていた。自転車を車で運搬することを想定していると考えられるが、駐輪場の情報整備が望まれる。

4. おわりに

インターネット上の自転車マップを収集分析した結果、観光客向けのものが多いことがわかった。記載情報が古いもの、枚数が多く閲覧が難しいもの、駐輪場などの必要事項が欠けているものもあった。今後さらに事例を収集し、利用者にとって使いやすい自転車マップのありかたを考察してゆきたい。